

名古屋市孤独・孤立に関する調査 調査結果のポイント

名古屋市健康福祉局
地域共生推進部地域共生推進課

調査の背景

令和6年4月に孤独・孤立対策推進法が施行されたことを踏まえ、本市の孤独・孤立の実態を把握し、今後の施策について検討していくために実施した。

調査の実施概要

正式名称	名古屋市孤独・孤立に関する調査
調査目的	名古屋市における孤独・孤立の実態を把握し、今後の孤独・孤立対策事業及び関連行政施策の基礎資料とすること
調査の根拠法令	統計法(平成19年法律第53号)に基づく一般統計調査
調査対象	名古屋市内に居住する満16歳以上の個人
調査方法	名古屋市健康福祉局地域共生推進部地域共生推進課から調査対象者あてに調査書類を郵送。調査対象者はオンライン又は郵送により回答(※調査は株式会社BIZPOWERに委託して実施)
調査期間	令和7年6月16日～令和7年7月13日
調査事項	孤独や孤立に関する事項、年齢、性別等の属性事項等(全34問)
回答数	調査書類の配布数:10,000件 有効回答数:4,108件(有効回答率41.1%)
結果公表	令和8年1月

※調査結果は名古屋市WEBサイト(<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/fukushi/1016746/1043955.html>)に掲載

孤独の把握方法、孤独の状況

- **孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、この調査では2種類の設問を採用**

【1】直接質問 : 孤独感を直接的に問うもの

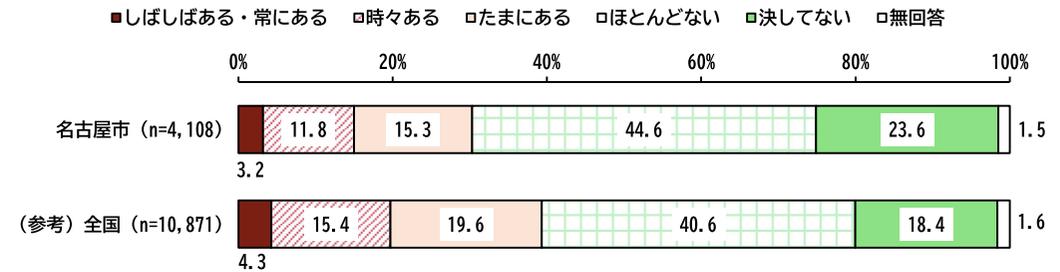
- **孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は3.2%、「時々ある」が11.8%、「たまにある」が15.3% → 合計約3割が「孤独感がある」と回答。**
一方で、孤独感が「ほとんどない」と回答した人は44.6%、「決してない」が23.6% (図1)
- **全国調査と比較すると、「孤独感がある」と回答した割合が9.0%低くなっている(図1)。**

あなたはどの程度、孤独（ひとりぼっちと感じる精神的な状態）であると感じることがありますか。

- | | |
|----------|---------------|
| 1 決してない | 4 時々ある |
| 2 ほとんどない | 5 しばしばある・常にある |
| 3 たまにある | |



【図1】孤独の状況（直接質問）-名古屋市、全国



【2】間接質問 : カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)のラッセル氏が、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA孤独感尺度」¹⁾の日本語版²⁾の3項目短縮版³⁾に基づき、以下の3つの設問への回答をスコア化⁴⁾して孤独感を評価するもの

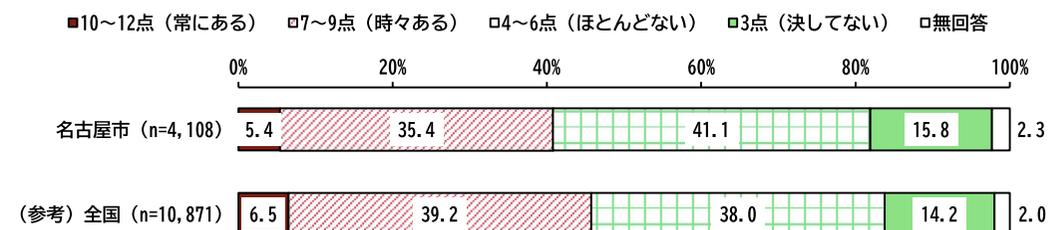
- **合計スコアが「10～12点」の人が5.4%、「7～9点」の人が35.4%、一方で、「4～6点」の人が41.1%、「3点」の人が15.8%(図2)**
- **全国調査と比較すると、合計スコアが「10～12点」及び「7～9点」と回答した割合が合計4.9%低くなっている(図2)。**

- ①あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。
- ②あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。
- ③あなたは、自分は他の人たちから孤立（社会とのつながりや助けのない又は少ない状態）していると感じることがありますか。

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 決してない (1点) | 3 時々ある (3点) |
| 2 ほとんどない (2点) | 4 常にある (4点) |



【図2】孤独の状況（間接質問）-名古屋市、全国

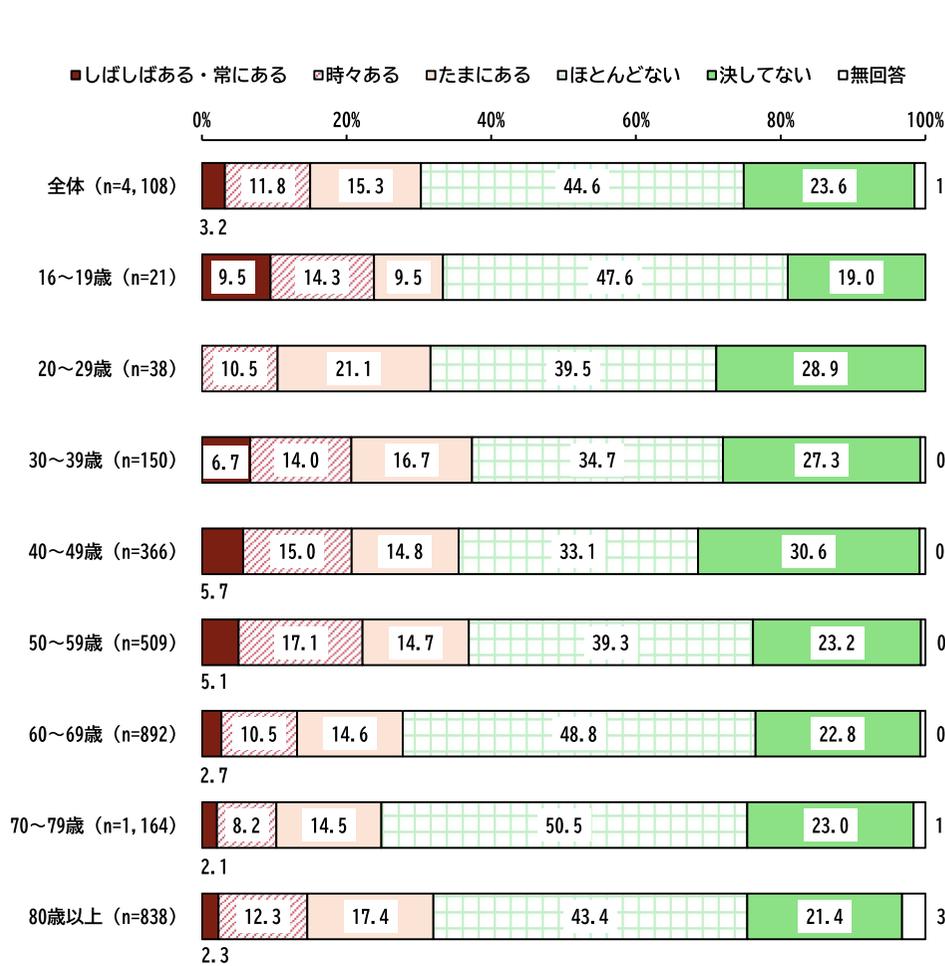


1) Russell DW. UCLA loneliness scale (version 3): reliability, validity, and factor structure. J Pers Assess. 1996;66(1):20-40.
 2) 舛田ゆづり, 田高悦子, 他: 高齢者における日本語版UCLA孤独感尺度(第3版)の開発とその信頼性・妥当性の検討, 日本地域看護学会誌. 15(1):25-32, 2012.
 3) Arimoto A & Tadaka E: Reliability and validity of Japanese versions of the UCLA loneliness scale version 3 for use among mothers with infants and toddlers. BMC Women's Health. 2019;19:105.
 4) 「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化。合計スコア(3点～12点)が高いほど孤独感が高いと評価

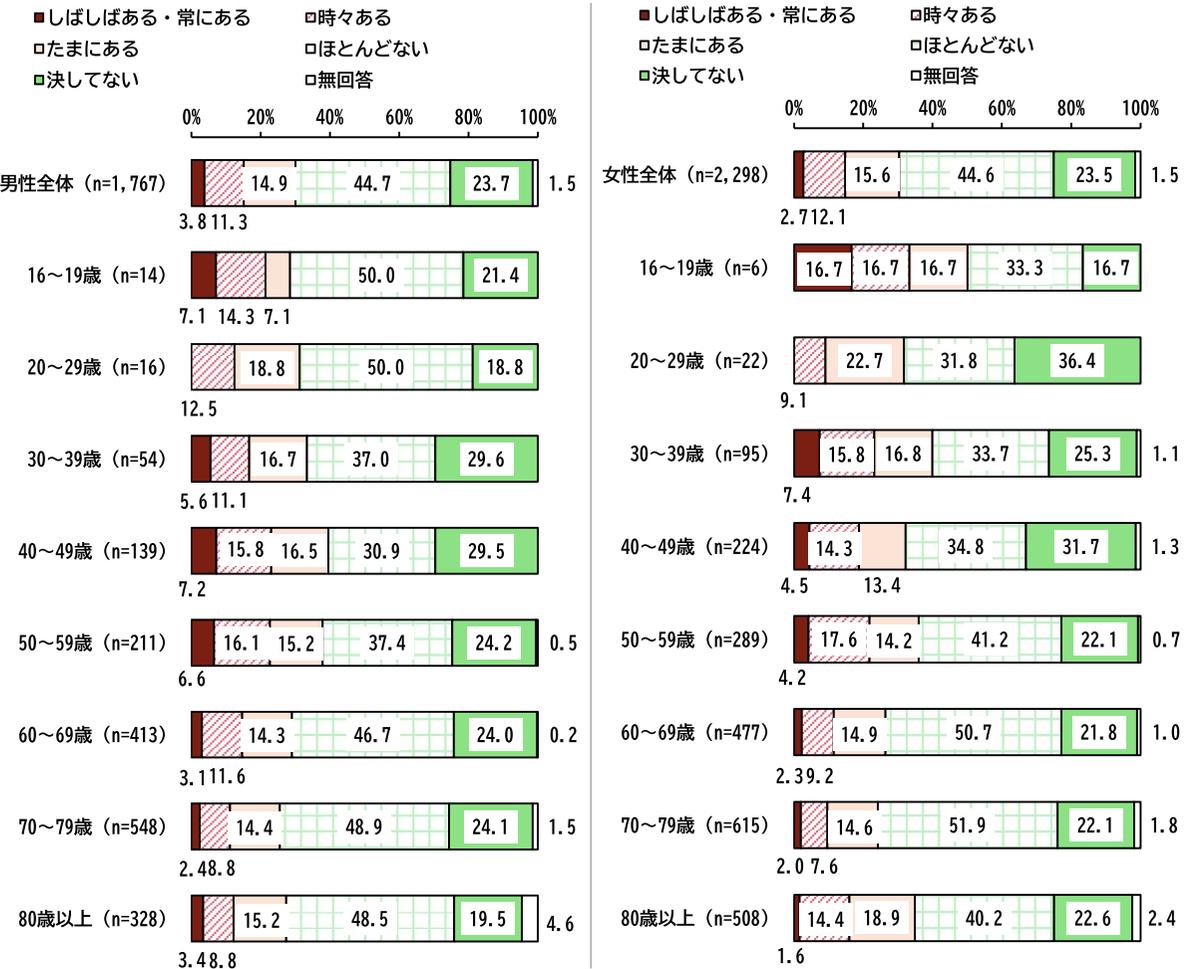
孤独の状況（年齢階級別、男女別の孤独感、孤独感の継続期間）

- 孤独感を年齢階級別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、16～19歳で最も高くなっており、30歳代から70歳代までは年齢が高くなるにつれて低くなっているが、80歳以上で再び高くなっている(図3)。
- 男女別にみると、男性が3.8%、女性が2.7%
男女・年齢階級別にみると、男女ともに30歳代から50歳代で高くなっている(図4)。

【図3】年齢階級別孤独感



【図4】男女・年齢階級別孤独感

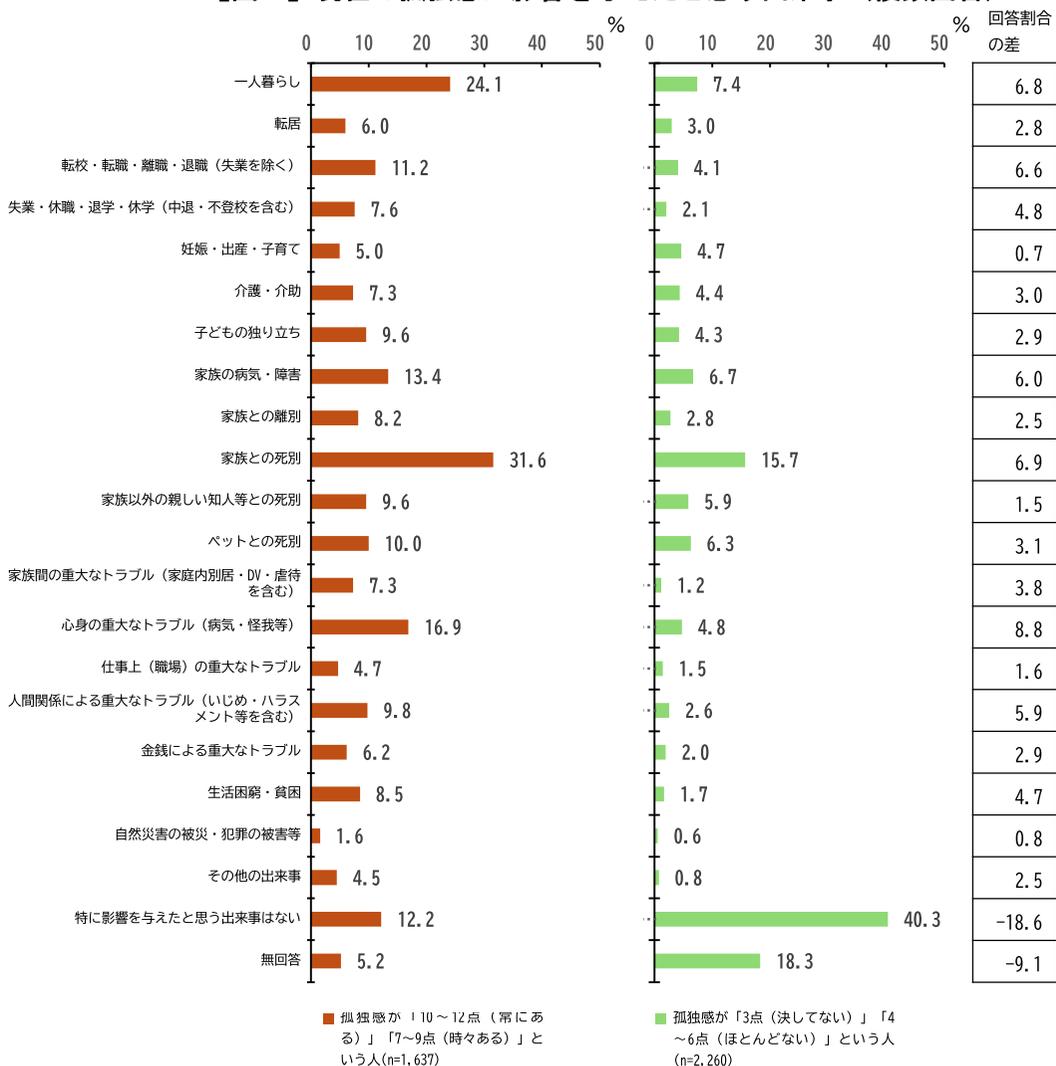


(注)男性及び女性の「16～19歳」及び男性の「20～29歳」については、回答者数が甚少のため、参考値。

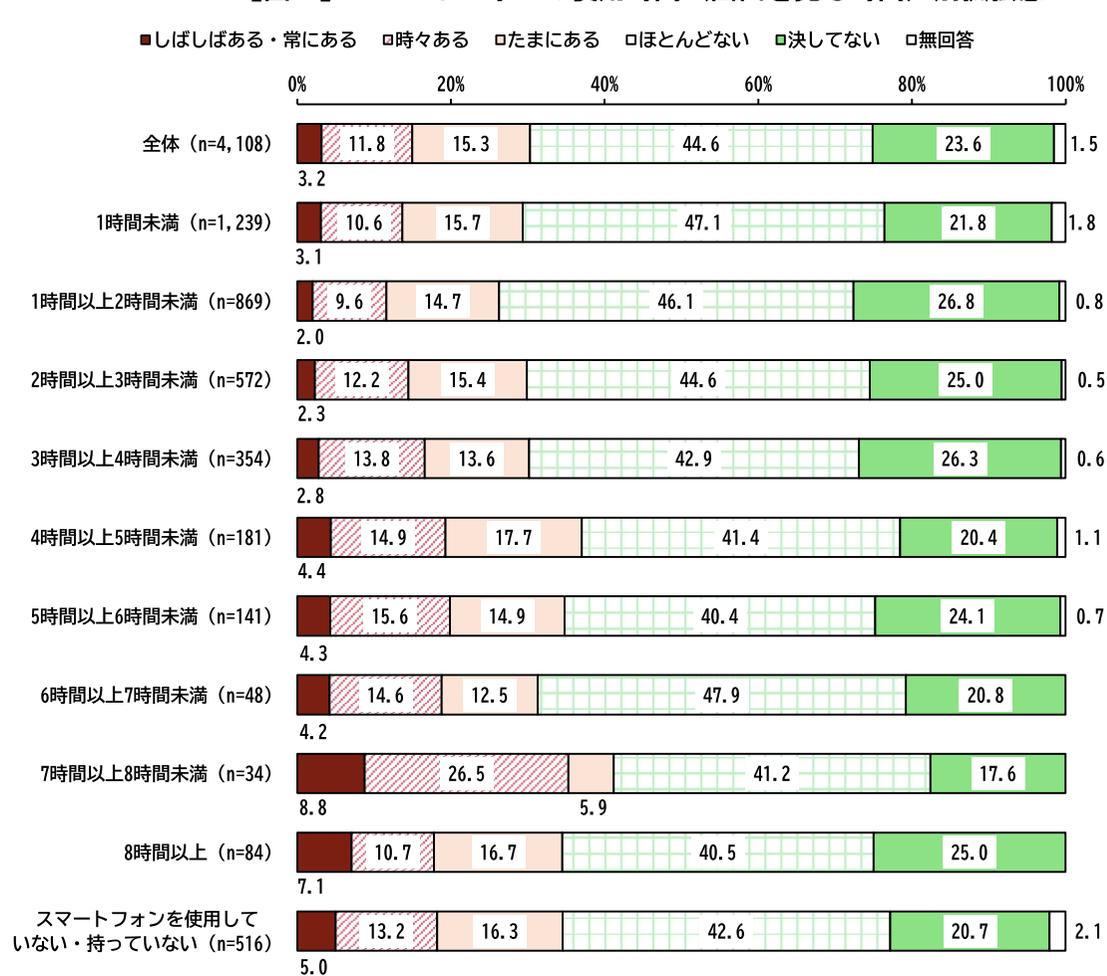
孤独の状況（現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事、スマートフォンの使用時間）

- 現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事をみると、孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」又は「たまにある」と回答した人(孤独感が比較的高い人)では、「家族との死別」を回答した割合が31.6%と最も高く、次いで、「一人暮らし」(24.1%)などとなっている(図5)。
- スマートフォンの使用時間をみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「7時間以上8時間未満」、「8時間以上」及び「スマートフォンを使用していない・持っていない」で高くなっている(図6)。

【図5】現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事（複数回答）



【図6】スマートフォンの使用時間（画面を見る時間）別孤独感



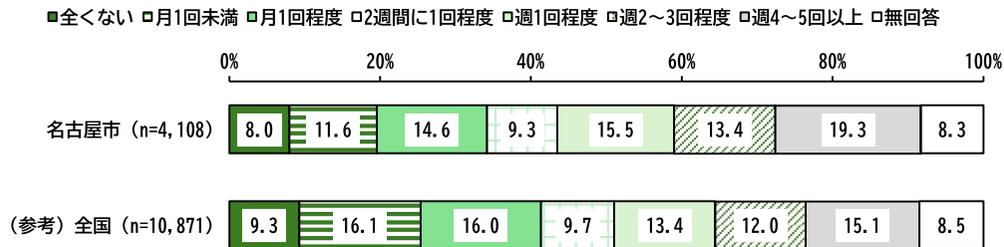
孤立の把握方法、孤立の状況

- 孤立については、国内の先行研究などを参考に①家族・友人等とのコミュニケーション頻度(社会的交流)、②社会活動への参加状況(社会参加)、③行政機関・NPO等からの支援の状況(社会的サポート(他者からの支援))、④他者へのサポート意識(社会的サポート(他者への手助け))の状況から把握

①家族・友人等とのコミュニケーション頻度(名古屋市、全国)

- 同居していない家族や友人たちと直接会って話すことが「全くない」と答えた人の割合は8.0%(図7)

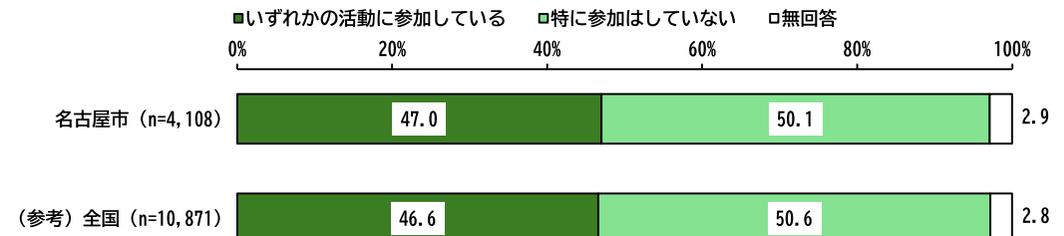
【図7】同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度



②社会活動への参加状況(名古屋市、全国)

- 「特に参加はしていない」と答えた人の割合が50.1%で、いずれかの活動に参加している人の割合は47.0%(図8)

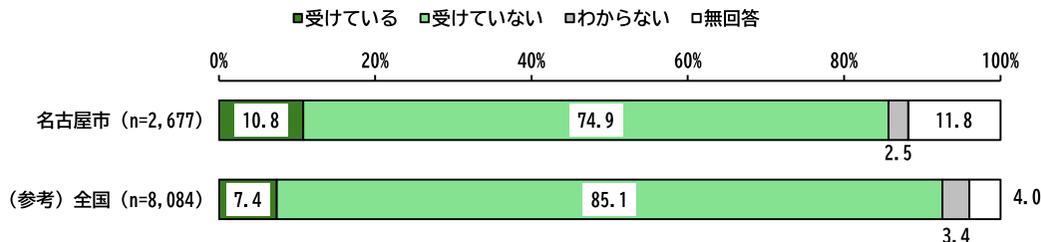
【図8】社会活動への参加状況



③行政機関・NPO等からの支援の状況(名古屋市、全国)

- 支援を「受けていない」と答えた人の割合が74.9%で、全国調査より10.2%低い(図9)
- 支援を受けていない理由としては、「支援が必要ではないため」と回答した割合が61.5%と最も高い

【図9】不安や悩みに対する行政機関・NPO等からの支援の状況

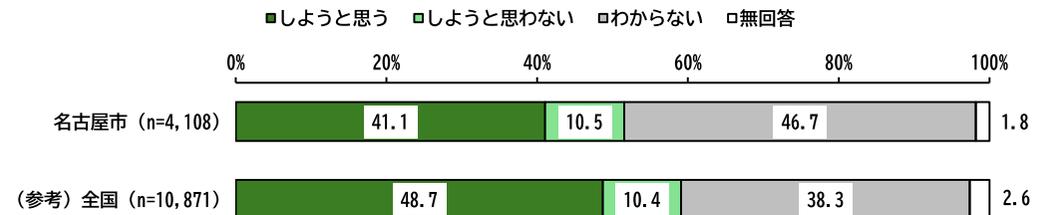


(注)行政機関・NPO等からの支援については、日常生活に不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した人を対象として尋ねている。

④他者へのサポート意識(名古屋市、全国)

- まわりに不安や悩みを抱えている人がいたら、積極的に声掛けや手助けを「しようと思う」と答えた人の割合が41.1%(図10)
- 「しようと思う」と答えた割合は、男性では30歳代で、女性では20歳代から40歳代で高い

【図10】他者へのサポート意識



【参考】孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合に関する主な属性別結果

あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

	名古屋市	(参考)全国
しばしばある・常にある	3.2%	4.3%
時々ある	11.8%	15.4%
たまにある	15.3%	19.6%
ほとんどない	44.6%	40.6%
決してない	23.6%	18.4%
無回答	1.5%	1.6%

